

## タラノキ新品種「ぐんま春王NT（仮称）」の特性

### 研究のねらい

農業技術センターで育成したタラノキ品種「ぐんま春王」は、収量性や促成芽（たらの芽）の品質に優れ、そうか病に強く、現在、栽培の主力品種となっています。しかし、茎や葉、促成芽に鋭いトゲがあるため、産地から作業性の優れた新品種の育成が要望されていました。

そこで、「ぐんま春王」栽培株の中からトゲが極めて少ない突然変異系統を選抜しました。この系統は「ぐんま春王」と同様にそうか病に強く、促成芽の品質も良いことが確認できたため、「ぐんま春王 NT(仮称)」と命名して品種登録出願しました。

### 品種の特徴

- 1 茎や葉、促成芽のトゲが非常に細く、少ないため、「ぐんま春王」より作業性に優れます（写真1）。
- 2 そうか病に対して、「ぐんま春王」並の抵抗性があります（図1）。
- 3 タラノキは春に種根をほ場に定植し、生育した穂木を初冬から初春にかけて切り出し、1側芽ごとに細断して、パイプハウス内に伏せ込みます。これを高湿度条件で栽培し、萌芽した促成芽を収穫します。「ぐんま春王 NT」は、穂木1本当たりの側芽数が多く、促成芽の1芽重も重いため、高収量となります（表1）。
- 4 促成芽の品質は芽長が長く、緑色が鮮やかで身がしまっています（写真2）。



「ぐんま春王NT」



「ぐんま春王」

写真1 生育中の株でのトゲの比較

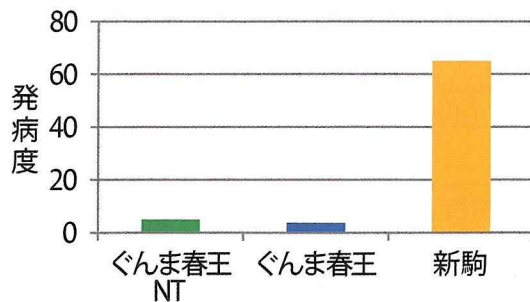


図 1 そうか病に対する抵抗性

表 穂木の生育、促成芽の収量

品種名	穂木長 (cm)	側芽数	1芽重 (g)	収量 (kg/10a)
ぐんま春王NT	248	33	11.2	345
ぐんま春王	261	32	11.3	335
新駒	204	27	8.4	199



写真2 「ぐんま春王NT」の促成芽

### 今後の取り組み

側芽が多い品種の特性を活かした栽培技術の普及を図るとともに、今後は立枯疫病耐性の品種との交配による、病害に強いタラノキの育成を検討します。

（執筆者：篠原 和典）